



# 自分らしさをかなえる「ふじのくに」での新しい暮らし方

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、地方暮らしに注目が集まっている。多くの移住希望者の関心は、脱大都市圏だけではなく、新しい生活様式や「自分らしい生き方」にもおよぶ。県は、多彩なライフスタイルと安心して暮らせる「ふじのくに」の強みを生かした、ウィズコロナに対応した移住促進政策を進めている。

## 地方暮らしへの関心の高まり

コロナ禍において新しい生活様式が求められている。三密回避という観点からテレワーク、リモート会議、サテライトオフィス等の導入が進み、働き方や暮らし方、ひいては大都市圏での生活を見直そうとする動きも生じている。そんな状況の中で注目を集めているのは、本県への移住だ。

県はかねてからポスト東京時代を担うべく、富国・有徳の美しい「ふじのくに」の実現に向けて、誰もが活躍できる地域づくりを進め、移住・定住の促進事業にも積極的に取り組んできた。地方移住を支援する認定NPO法人「ふるさと回帰支援センター」の移住希望地ランキングによれば、本県は

2019年が全国3位、2018年が同2位、2017年が同3位となっており、コロナ禍以前から高い人気を維持している。従前の取り組みに加え、新型コロナウイルスにより東京一極集中の問題点と安心して暮らせるという本県の強みが明らかとなり、本県移住への関心が高まっている。

## 静岡県の強みを生かす

移住を希望する人の関心事は、移住先での仕事、住まい、子育て、医療など多岐にわたる。本県は東京から1〜2時間の通勤圏内と近く、豊かな自然に恵まれ、産業、教育、医療、防災体制等の環境が整っており、移住希望者にとって理想的な条件がそろっている。食材や温泉の宝庫という魅力もあ

る。実際、首都圏から移住した人たちの間では「海や山が近い」「家が広くなった」「子どもと遊ぶ場所がたくさんある」「趣味の時間が増えた」「東京への通勤も可能」など、都市部でかなわなかった「自分らしい暮らし」を実感しているという声が多い。

そこで県は、テレワークをしながら魅力的なライフスタイルを実現している移住者などの動画を制作し、WEB広告等で大都市圏へ配信したところ、動画の再生回数は約2ヶ月半で40万回を超えた。その他、スルガ銀行東京支店の屋外ビジョンや静岡銀行全支店の店内テレビでの放映など、地元企業の協力もあり、本県が運営する移住・定住情報サイト「ゆとりすと静岡」へのアクセス数も

令和2年4月から11月を令和元年の同期と比較すると、対前年同期比142.1%と増加した。

県は全県規模の移住相談会「静岡まるごと移住フェア」を、昨年11月に初めてオンラインで開催した。移住希望者が関心のあるテーマを設定したオンライン移住セミナーも、定期的に行っている。「静岡海移住」「伊豆南部の自然を味わう暮らし」「本気の静岡県就農セミナー」などだ。中には本県と山梨県の共催による「ポストコロナ時代のテレワーク移住セミナー」もあり、これまでの枠にとられない新しい動きも生まれている。緊急事態宣言を受け一時中断されていた「静岡県移住相談センター」（東京・有楽町）の対面相談も昨年6月に再開し、同年10月末までの相談件数は対前年比118.3%。本県へ興味を抱く移住希望者は確実に増えている。

## 定住率の向上へ

県の移住・定住に関する取り

組みは、情報発信や相談対応だけでなく、受け入れ態勢の強化にもおよぶ。関係市町と連携して、地域と移住者の関係づくりを支援し、自分らしい生き方を求める移住者の生活の質や満足度、ひいては定住率を高めようとする試みだ。そのために県は、移住してきた人の声を丁寧にすくい上げ、それらの情報を関係市町と共有しながら、きめ細かく、多彩な受け入れ態勢を整える手がかりとしていく。

また、今年度はテレワーク等「新しい生活様式」に対応できる既存住宅の改修助成事業のほか、ワーケーションの推進やサテライトオフィスの関連情報を集約・発信するポータルサイトの開設にも着手。本県に人を呼び込む取り組みが着々と進んでいる。

誰もが活躍できる地域づくりを進める本県は、移住希望者にとって自分らしい生き方を実現できる理想郷の1つと言えるだろう。アフターコロナ時代を考える上で、本県が掲げる「ふじの

くにライフスタイル」の提案は、新しい生活様式のヒントとアイデアに満ちている。

## 〈動画「はじめよう、静岡暮らし。」インタビューから〉

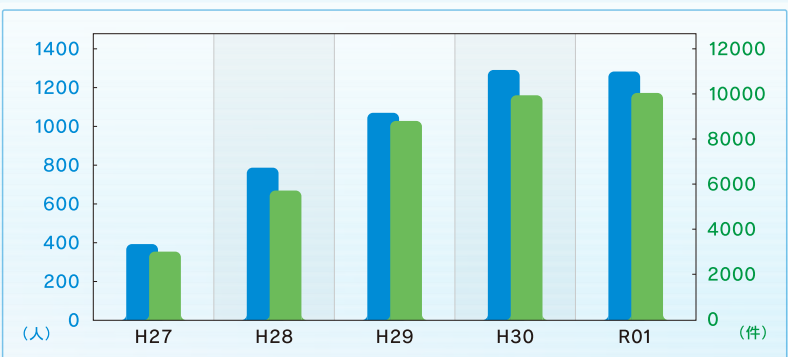


東京都から松崎町へ移住した伊東亨さん

古民家のコワーキングスペースでテレワークをしながら、家族と大自然を満喫している。「仕事場は町営のコワーキングスペース「ふれあいとーふや。」です。古民家を改装した施設で、Wi-Fiや冷暖房も完備されていて環境はとても素晴らしいです。家族に焦点を移した暮らしがしたいなというのが僕の中ではあり、伊豆は海も川も山もあって、子供と一緒に遊ぶには事欠かないなど。人もとても優しいし、自然がとつても豊かなところなので、住む場所は本当に松崎町でよかったなと思っています。」



静岡県への移住者数と移住相談件数



いちごハウスから生配信する「オンライン就農セミナー」の様子(掛川市)。対面の接触を避けつつ現地の様子を伝えられるのが、オンラインの強み。



東京から静岡市に移住した前田さん一家。自然が近く、子育ての環境が整っているのも静岡暮らしの魅力の一つだ。



サーフィンを楽しむ高須賀さん夫妻(東京→熱海市)。首都圏から自然を求めて移住する人も多い。